

# 和服と洋服の合わせ遍歴

## —合わせに着目したユニセックス和服の制作—

坂上 綺海

〔指導教員：武庫川女子大学准教授 末弘 由佳理〕

キーワード：和服，洋服，歴史，ユニセックス

### 1. 研究の背景及び目的

昨今の日本では、和服の合わせを間違えたまま着用している人も多くみられる。その背景には、「右前」というワードが影響しているのだろう。右前は着用している本人からすれば左前身頃が上にきている状態であるが、その言葉から右身頃が上にくってしまう可能性は大いに考えられる。

また、洋服は和服のように合わせが同一ではなく、男女で合わせが異なり、女性は和服と洋服とで逆になる。その結果、左前にして和服を着用してしまうという現象は洋服の着方から考えると不思議ではないだろう。

その中で、洋服と和服の合わせの歴史はどこから始まり、どのように変化していったのか。なぜ、洋服はほとんど作りが変わらないのに男性と女性で合わせが異なったのか。本研究では歴史的な観点からこれらを調査する。

### 2. 和服

#### 2-1 和服の合わせの歴史

719 年までの日本では左前で着ることが一般的であった<sup>1)</sup>。それは日本がその昔、胡人と交流があったことによる。当時の日本の着物は胡人が着ていた胡服を元に衣服を形成していった。そして胡服は左前で着用されていた為、日本でもその文化を受け入れ、左前で着用されていた。

しかし、719 年に発令された養老律令の中で、着物の着方を右前に改めるような法律が決められた<sup>1)</sup>。この法律が発令された背景には唐が深く関係している。

日本は昔、胡人と交流があったが、中国で起こった戦国時代などの戦いで胡人は中国の中で野蛮な民族とされた。日本は遣隋使や遣唐使など、胡人とではなく隋や唐との交流を盛んに行うようになった。その中で 719 年の正月に帰朝した多治比縣守たちが唐から持ち帰った唐式朝服を着用して天皇の前に現れた際、天皇は唐の衣服が右前であることを目にし、唐土に習って日本も全国民の衿の合わせを右前にするよう 719 年に令を出した<sup>1)</sup>。

#### 2-2 和服の男女差

主に女性物は男性物が足首までの対丈であるのに比べて長く、身幅を狭く仕上げる。また、身八ツ口と袖八ツ口という、縫われていない部分があり、女性の帯は太くなるために空気がなく動きにくく、衣服が突っ張ってしまう。和服は体に合わせて帯を巻くため、ゆとりの代わりとして脇の下を開けておくことで着崩れることなく可動域を作ることができるのである。逆に男性はその部分を縫い合わせており、それを人形と呼ぶ<sup>2)</sup>。

### 3. 洋服

#### 3-1 ボタンの普及

西欧では服を留めるものとして紐が使われていた。しかし、11 世紀に十字軍が東洋に訪れた際、蜻蛉頭と受け緒からなる留め具を目にし、それが伝わったとされている<sup>3)</sup>。蜻蛉頭と受け緒からなるボタン留めは、ボタンホールは刺繍の手間がないことから広まったと言われ、ボタンとボタンホールで留めるボタンは 17 世紀頃になるまで広まらなかった。

男性服の打ち合わせは東洋で目にした右前を採用したことに加え、右利きが多かったことや、剣や銃を取る際に引っ掛かりがなかったことなど、様々な好条件が重なり定着した。

女性服においては 1860 ～ 70 年代になるとボタン留めの衣服が出てくる<sup>3)</sup>。

#### 3-2 洋服の合わせの歴史

19 世紀後半より男性王侯貴族の遊びの一つであったスポーツが、イギリスの新興ブルジョワジーを中心に最大の娯楽として流行した<sup>4)</sup>。女性は男性に頼って生きるものだと考えられていた 19 世紀の社会で女性がスポーツを楽しむことは考えられなかったが、新興ブルジョワジーの家族中心主義という精神から女性のスポーツ参加を黙認していた。中でもローンテニス、新興ブルジョワジーの中で家族ぐるみで行うスポーツとして楽しまれた。当初はローンテニスが若い男女のお見合いの場として使われた。その為、女性にとってはテニスをするというよりも、最新流行のファッショナブルなドレスで身を包み、披露する場になっていた。しかしその中で、競技としてのテニスに楽しみを見出した女性はシンプルで動きやすい服装でプレイし、女性たちの間でスポーツが浸透しつつあった<sup>4)</sup>。

19 世紀後半になってもスポーツ専用の衣服はほとんどなかったが、乗馬服においては男性服仕立てのテーラードなスカートスタイルのスーツが使用されていた。元々、テーラードスーツを仕立てる人は男性のテーラーであったが、次第に女性服のメーカーもテーラーメイドコスチュームを作るようになった<sup>4)</sup>。

1872 年 5 月に紳士用のコートのデザインを取り入れた婦人用のコートが女性誌に掲載されたことを皮切りに、紳士服のデザインを婦人服に活用したファッションが流行した<sup>5)</sup>。男性からはこれらのファッションに身を包んだ女性はあまりよく見られなかったが女性からの支持は高かった。それは乗馬に対する憧れからだろう。乗馬は高貴なスポーツであり、その装いは女性たちの憧れの的でもあった。その乗馬服に似た衣服として登場したものが婦人用のテーラードスーツで、

1870年代後半になると高級衣裳店がスポーツ用のスーツとして扱い始めた<sup>4)</sup>。その際、上流階級の女性たちは衣服の着脱にはメイドが付いて行われていた。つまり、男性が自ら留め外しするのに右前であり、メイドが留め外ししやすい向きという事から考えると、女性のテーラードが左前で制作されたことは何ら不思議ではない。

また、1875年以降、産業革命から起こった印刷技術の発展によりファッションに関する広告や記事、雑誌の刊行と販売部数が急激に増加した<sup>5)</sup>。そして雑誌に掲載されたテーラードスーツが左前であり、それらが多数発行され、テーラードスーツに憧れを持つ女性や、製造を行う人々が目にし、左前が定着したと考えられる。その後、大量生産が可能になり、若い女性がテーラードスーツを着用できるようになった頃には左前が当たり前となり今まで続いたと考えられる。

#### 4. 制作

和服・洋服の合わせや構造等がたどってきた歴史を解明した上で、ジェンダーレスの衣服を製作しようと思いついた理由は次の2つである。

1つは、和服は洋服に比べる構造的に大きな違いがなく、また、男性が女性の着用するような柄の着物を着用する事や、女性が男性の着用するような着物を着用しても違和感がない点から、和服の持つジェンダーレスの可能性を見出した。

2つ目の理由は、外国人の和服に対する興味、関心である。関心を持たれているにも関わらず、和服は洋服に比べると明らかに着づらいものである。その為、外国人も間違えることなく簡単に着用できるが、和服とかけ離れないデザインのものを作るにいった。

#### 5. まとめ

合わせの歴史においては、和服洋服共に元を辿ればアジアが関係していた。ただ、同じアジアであっても、和服のように法を定めそれが今まで続いたものと、洋服の時代が影響したものとは経緯が全く違うものであった。

洋服の合わせが男女で違うようになったのは、その背景にある時代が大きく関係していた。その時代の男女の格差や、産業革命などの人々の生活文化を大きく変えたものがその時代の人々の衣服を変えた。



図1 制作品

(左：作品 中央：女性着用イメージ 右：男性着用イメージ)

#### 参考文献

- 1) 増田美子：日本衣服史，吉川弘文館，2010
  - 2) 池上良太：図解 日本の装束，新紀元社，2008
  - 3) 丹野郁：服飾の世界史 本篇，日本図書センター，2009
  - 4) 佐々井啓：ファッションの歴史—西洋服飾史—，朝倉書店，2003
  - 5) 佐々井啓：ヴィクトリアン・ダンディ オスカー・ワイルドの服飾観と「新しい女」，勁草書房，2015
- ・平成 26 年度製造基盤技術実態等調査事業（和装振興のあり方に関する調査事業）結果報告書，[http://www.meti.go.jp/meti\\_lib/report/2015fy/000401.pdf](http://www.meti.go.jp/meti_lib/report/2015fy/000401.pdf) (2018/11/13)
  - ・ダイヤクリーニング，<https://diacleaning.com/blog/%E7%9D%80%E7%89%A9%E3%81%AF%E7%94%B7%E6%80%A7%E3%82%82%E5%A5%B3%E6%80%A7%E3%82%82%E5%8F%B3%E5%89%8D%E3%81%AB%E7%9D%80%E3%82%8B%E3%81%AE%E3%81%AF%E3%81%AA%E3%81%9C%E5%BC%9F> (2018/11/16)
  - ・コトバンク「和服」，<https://kotobank.jp/word/%E5%92%8C%E6%9C%8D-154291> (2018/11/7)
  - ・コトバンク「浴衣」，<https://kotobank.jp/word/%E6%B5%B4%E8%A1%A3-651420> (2018/11/7)
  - ・Google「浴衣 兵児帯」，<https://www.google.co.jp/search?q=%E6%B5%B4%E8%A1%A3+%E5%85%B5%E5%85%90%E5%B8%AF&oq=%E6%B5%B4%E8%A1%A3+%E5%85%B5%E5%85%90%E5%B8%AF&aqs=chrome..69i57j0l5.5750j0j8&sourceid=chrome&ie=UTF-8> (2018/11/7)
  - ・華梅：中国服装史—五千年の歴史を検証する—，白帝社，2003
  - ・坂倉良一：図でわかる 基礎きもの，おうふう，2008
  - ・丹野郁：西洋服飾史 増訂版，東京堂出版，1999
  - ・年別 訪日外客数，出国日本人数の推移，[https://www.jnto.go.jp/jpn/statistics/marketingdata\\_outbound.pdf](https://www.jnto.go.jp/jpn/statistics/marketingdata_outbound.pdf) (2018/11/26)